

## 特別企画シンポジウム: COVID-19 感染症と透析医療の現状と今後

2020年1月に日本で初めての新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が発生されて以降、様々な対策にもかかわらず、現在1日7000人の新規発生者を認めるまでに至り、特に大阪では重症者が群を抜いて多いことなどから、医療現場の逼迫が大きな問題になっております。透析医療は一定の空間に一定の時間、同じ患者や医療スタッフが滞在して医療行為を行うため、飛沫、接触など各種伝搬経路による感染症の拡大、蔓延リスクが高いとされています。また透析患者は一般人口よりもCOVID-19感染症の予後が悪いことも示されています。世界各国でも透析施設での感染拡大予防のための様々な取り組みや指針がでており、本邦でも日本透析学会、透析医会、腎臓学会が合同でCOVID-19感染症に対して取り組み、実態の把握や感染対策の指針を示しています。大阪では大阪透析研究会と大阪透析医会が合同で委員会を立ち上げ、行政とともに感染症に対する取り組みを行っています。これらの中心を担っている先生方にCOVID-19の現状と今後についてご講演いただきます。

### 【講師】

「透析医会のCOVID-19 対応」

山川 智之(大阪透析医会会長/特定医療法人仁真会 白鷺病院 理事長)

「COVID19 臨床現場での経験」

金口 優生(りんくう総合医療センター 臨床工学科)

「COVID 感染に対する大阪府の対策と問題」

村山 歩(大阪府健康医療部保健医療室 感染症対策課)

「COVID の現状と今後の医療対策」

朝野 和典(大阪大学大学院医学系研究所 感染制御学)

「新型コロナウイルス感染症から日本の医療政策を考える」

自見 英子(参議院)

### 【座長】

武本 佳昭(大阪透析研究会 会長/大阪市立大学大学院医学研究科 泌尿器病態学)

山川 智之(大阪透析医会 会長/特定医療法人仁真会 白鷺病院 理事長)

(敬称略)